

令和 8 年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティア活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかけます。

令和 8 年度は「すみだの“今”を知り、“未来”を考える～多世代でつながる これからの地域福祉～」をテーマに開催しました。

2 日時

令和 8 年 6 月 13 日（土）午後 1 時から午後 4 時まで

3 場所

すみだ生涯学習センター ホール、研修室 1、多目的室、創作活動室 1

4 内容

（１）講演 「多世代でつながる これからの地域福祉」

NPO 法人おりがみ 理事長 都築 則彦 氏

（２）安田学園インターアクトクラブ活動紹介

（３）分科会

第 1 分科会「誰もが安心できる居場所を考える」

墨田区社会福祉協議会 新井 尚恵 氏

第 2 分科会「みんなが自分らしく暮らせる地域づくり」

墨田区社会福祉協議会 菊池 信 氏

第 3 分科会「配慮が必要な方に寄り添う災害時の助けあい」

墨田区災害復興支援組織 須藤 葵 氏

第 4 分科会「多様な文化が交わる共生社会を考える」

文花児童館 加藤 麻衣 氏

（４）まとめ

5 主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会、墨田区、墨田区社会福祉協議会

6 参加者数

所属等	人数	所属等	人数
ボランティア・個人	21名	安田学園・日本橋高等学校	20名
民生・児童委員	9名	興望館関係者	2名
手話・点字・要約筆記ボランティア	5名	実行委員	11名
高齢者支援・社会福祉法人関係者	5名	墨田区社会福祉協議会職員	14名
墨田区災害復興支援組織・防災士	4名	地域福祉課職員	10名
朗読ボランティア	3名	区職員	3名
日本語ボランティア	3名	講師・区長・社会福祉協議会会長	3名
一般社団法人藝と関係者	4名	合 計	117名

7 概要

(1) 司会者紹介

今年度は実行委員の岩澤委員、黒田委員が司会者でした。

(2) 開会挨拶

開会にあたり、五十嵐実行委員長、山本墨田区長、須藤墨田区社会福祉協議会会長から挨拶がありました。



(3) 講演

テーマ：多世代でつながる これからの地域福祉

講 師：都築 則彦 氏（NPO 法人おりがみ 理事長）

【おりがみ設立のきっかけ】

私は現在千葉大学大学院博士後期課程で、地域社会学という分野でボランティアの研究をしています。まずは「NPO 法人おりがみ」という団体名についてですが、オリンピックパラリンピックの「おり」、学生の「が」、みんなでの「み」、が由来となっています。なぜこれらの言葉が由来となっているかというと、当時はオリンピックに関わりたくても実際に関わることが難しかったからです。オリンピックのボランティア募集人数は80,000人だったのに対して、申し込んだ人が204,680人いました。定員数を超過した100,000人以上の人と、更に応募したかったけれども条件に合わなくて申し込めなかったという人も含めると、沢山の人が何かしたいけれどもできないという状況でした。私たちはそんな中オリンピックとの関わり方を募集されたものに参加するのではなく、自分たちで枠組みを作っていこうと考えて千葉県庁や東京都庁、あるいは墨田区役所の皆さんなど、色々な方々と連携しながらオ

リンピックの関わり方を作り上げていくという活動を行い、それが私たちの原点になっています。そのため、ボランティアというものを誰かに募集されて参加するものではなく自分たちで企画し作り上げていくものとして扱っています。こういったことからボランティアをもっとクリエイティブなものにしていこうというビジョンを掲げて様々な活動を展開しています。学生団体として立ち上げたのは今から12年前の2014年で、私が大学1年生のときです。今も学生団体が残っておりNPO 法人と学生団体の二つの団体で活動しています。

【おりがみの活動】

おりがみの活動の1つである「パラ旅応援団」は2020年のパラリンピック競技会場の観客席を、障害のある方と学生で埋めていこうという活動を千葉県庁と一緒にやったことがスタートとなっています。障害のある方と学生ボランティアと一緒に旅をしたりスポーツ観戦に行ったりと、人と人が出会う場所はとても大切だという考えで生まれていった取組です。背景に設定している問題意識としては、障害のある方の孤独・孤立の問題です。私たちはこれまで様々な障害のある方と出会ってきて、友人関係や外出先がワンパターン化されやすいという問題があると考えています。例えば外に行こうと思ったとき、施設に通っている方であれば施設の方と家族との外出に絞られ、その先の友人関係の広げ方の難しさがあります。しかし、施設の中で喧嘩をしてしまったとき、施設以外にも友達がいて、“あの人も外に出かける”という関わりが1つでもあるということが人生の大きな希望になっていくだろうと思っています。ほかにも知的障害のある方のご家族で外出するときに、子どもが外出先でトラブルを起こしてしまうという体験を重ねることで行ける場所が徐々に絞られていくという体験を伺っています。そういった方々に向けてパラ旅の活動を広げていき、社会につながる機会を障害のある方々と広げていこうということに意識して取り組んでいるのがこの活動です。この活動では、学生ボランティア4名、障害のある方2名、ヘルパー1名の7人1チームでグループを組みます。障害のある方とヘルパーだけでも外出はできますが、あえてボランティアがグループに入り友達になることで、学生側もこれをきっかけに福祉施設でアルバイトやボランティアをしようと考えたり、今度プライベートでもお出かけしようかなというようなつながりが生まれたりします。この7人1グループを全部で15～20グループ作り、100人から200人、多いときは300人ほどでお出かけにいくというような活動をしているのがこのパラ旅です。これまでで12回行っており、1,166名の方にご参加いただきました。大阪万博やパラスポーツの観戦、実は墨田区のキラキラ橋商店街にお出かけに行ったこともあります。このように色々なところにお出かけに行き、若い人が福祉に関わるきっかけを作っていこうという取組です。



【Earth Light Project について】

2020年はコロナウイルス感染症の影響で、私たちの活動はほぼ全てまるごとなくなりました。おりがみの活動のために休学をしていたような人もいたの、本当に失意のどん底でいなくなった人たちもいました。

私たちの様々な活動はそんな中で一つの活動にまとまっていきました。それが Earth Light Project です。これが私たちのオリンピックのときの集大成でした。これは成層圏で宇宙を背景に炎を灯すという取組です。これがなぜボランティアで、なぜオリンピックなのかと感じるかと思います。

きっかけはオリンピックの聖火リレーで、こちらの写真は左側が北京オリンピックの聖火リレーのコースで、右側が東京オリンピックのコースです。違いは世界地図か日本地図かという点です。



聖火リレーは昔国境を越えるコースを走っていました。1964年の東京オリンピックのときもユーラシア大陸を横断して日本にやってきました。聖火リレーというのはいわゆる平和のシンボルであり、国境というのがキーポイントでしたが、色々あって国境を越える聖火リレーのコースは禁止になってしまいました。今では国内しか走れないため、それだと世界平和じゃなくて地域活性化じゃないかと、それでいいのかという疑問がありました。そんな中、非公式ですが世界の聖火リレーを学生発端で取り戻せたらすごく面白いんじゃないかというアイデアを思いつきました。バーチャルリレーをやってみようとか船をチャーターしてみようとか、コロナ禍に学生で色々なアイデアを議論していました。そのとき思いついたのが宇宙飛行士の毛利衛さんの「宇宙からは国境線は見えなかった」という言葉です。国境を越えて炎を運ぶことはできない、ましてやコロナ禍で国外へ行くことは考えられないという中で、国境のない世界に行くことができれば聖火リレーに平和という意味合いを取り戻せるんじゃないかということをおもいつきました。これを色んな人にプレゼンテーションして、宇宙飛行士やオリンピック選手、パラリンピック選手など様々な人たちから応援メッセージをいただき、1,059万円というお金をクラウドファンディングで集めました。当時CAMPFIREというクラウドファンディングのサイトで歴代3位の調達金額でした。ただ、これは私だけでやった取組ではありません。コロナ禍でやりたいことができなくなった大学生は私だけではなく、沢山の人が学園祭や全国大会、留学ができなくなった中、皆でこの夢を追いかけるぞということで色んな学生団体に声をかけていきました。実は本日この会場にもメンバーが二人来てくれています。そして実はこのプロジェクトの技術開発の拠点が墨田区であり、京島3丁目の長屋で技術開発をして、現在そこは若者たちの技術開発の拠点として「クラフトワーク京島」という名前で運営されています。ぜひ足を運んでいただけたら嬉しいです。

【地域と若者の関わり方】

地域の輪の中に若者を入れるということも大事ですが、私は若者の輪の中に地域を入れてもらうということも大事だと思っています。私は富山県の南砺市で高校生の地域活動に5年ほどコーディネーターとして関わっていましたが、そのときに1年間、青春というテーマで地域で様々なプログラムを行い、その総まとめとして高校生を東京に呼んで、富山の高校生と東京の高校生で青春が何かについて一緒に話し合うというワークショップを行いました。そのときに高校生が出した色々な答えの一つに、「もらい笑い」というものがあって、なんだか分からないけど笑っちゃう場が青春なんだという意味だそうで、私はこのとき本当に高校生から学ばせてもらったなあと感じています。もし高校生のもらい笑いの輪の中に地域が上手く溶け込んでいけたら、そういう地域ってすごくいいと思いました。もちろん地域に若者を入れることも大切ですが、お互いにそういったことを目指すことが大事だと思っています。

(4) 安田学園インターアクトクラブ活動紹介

安田学園インターアクトクラブ会長 加藤 礼羅 氏

安田学園の場所をご存じでしょうか。墨田区横網に位置し、周囲には横網町公園や旧安田庭園、両国国技館、江戸東京博物館などがあります。本校は2014年に共学化し、現在は約2,100名の生徒が在籍しています。また、毎年東京大学への合格者も輩出しています。続いて、インターアクトクラブについてご説明いたします。皆さんはロータリークラブをご存じでしょうか。ロータリークラブとは企業経営者や弁護士など様々な職業の方々が集まり、親睦や社会奉仕活動を行っている世界的な団体です。そのロータリークラブに支援されて活動しているのが私たちインターアクトクラブです。12歳から18歳までの中高生が所属し、現在は世界に145か国、約30万人が活動しています。本日は50名の部員のうち11名で参加させていただいております。

ここからは私たちの具体的な活動について紹介します。毎週金曜日に全員で集まり、雑巾を作成して保育園や社会福祉協議会へ寄付しています。またペットボトルキャップの回収も行っており、ワクチン支援につながることの認知拡大を目的として、キャップアートの制作も行っています。例えばこちらはJR 両国駅に展示していただいた作品で、相撲と葛飾北斎の富岳三十六景をモチーフにしています。この作品には2,000個以上のキャップが使われています。さらに文化祭ではレモネードとクッキーの販売を行っています。レモネードは小児がんの子どもたちを支援する活動として行っています。また、就労継続支援施設の方々が作ったクッキーを販売し、地域の活動を広める取組も行っています。そのほかにもおもちゃや古着の回収、地域清掃などにも取り組んでいます。

次に、人との関わりを通じた活動についてです。ロータリークラブの例会に参加し、外部講師の方のお話を伺う機会があります。数学博士や元京都市副市長など多様な方々のお話を通じて、視野を広げることができます。また他校のインターアクトクラブと合同で模擬国連や活動発表を行い、交流を深めています。さらに地域の方々と共に募金活動や清掃活動も実施しています。障害者サッカーチームとの交流など多様な関わりも大切にしています。

続いて、墨田区内での具体的な活動です。こども食堂でのボランティアや町会の方々との清掃活動に参加しています。また社会福祉協議会の活動として日本語支援や保育補助、高齢者施設での交流も行っています。これらの内容については後ほど分科会で詳しくご紹介します。

最後に今後の展望です。これまでの活動を継続しながらデイサービスへのボランティアや地域活動、すみのわ、こども食堂の認知拡大へ取り組んでいきたいと思っています。

(5) 分科会

第1分科会「誰もが安心できる居場所を考える」

墨田区社会福祉協議会 新井 尚恵 氏

第2分科会「みんなが自分らしく暮らせる地域づくり」

墨田区社会福祉協議会 菊池 信 氏

第3分科会「配慮が必要な方に寄り添う災害時の助けあい」

墨田区災害復興支援組織 須藤 葵 氏

第4分科会「多様な文化が交わる共生社会を考える」

文花児童館 加藤 麻衣 氏



(6) まとめ (各分科会発表・感想)

【第1分科会：高村委員】

第1分科会では、墨田区社会福祉協議会の新井さんから地域福祉プラットフォームの現状についての説明と、安田学園インターアクトクラブの生徒によるボランティア体験の報告を踏まえ、安心できる場所の条件や共通点について意見交換を行いました。まず安心できる場所の条件としては、話しやすい場所、批判や否定がされない場所、対等な関係を保てる場所、などの意見が挙がりました。一方で、1人になれる場所や干渉されない場所という意見もあり、人とのつながりを重視する条件と、個人で静かに過ごせることを重視する条件という、対照的な二つの視点が見られました。そして“自分が行ったことのある安心できる居場所は何か”という質問については、人とのつながりを重視する視点では居酒屋、仕事場、ライブ会場、個人で過ごすことを重視する視点からは我が家、布団の中、などの意見が挙がりました。最後に年齢や障害に関わらず誰もが集える場所について話し合っていました。それぞれのグループの意見で共通した意見も出ていて、今日は人が集まる場所に行きたいけど明日は個人で過ごせる場所に行きたい、など、その時の気持ちによって安心して集える場所は変わるという意見がありました。そのほかに、地域の情報を共有するような仕組みがある場所や、公共施設で地域の情報をもっと発信してほしいという意見もありました。



これらの意見を踏まえ、誰もが安心できる居場所とは人と人とのつながりの中で自分らしくいられる場所なのではないかと思います。私は今後の取組として地域社会全体で支えあいながら、多世代が気軽に参加できる居場所づくりを進めていくことが大切だと思いました。

【第2分科会：八重田委員】

第2分科会はみんなが自分らしく暮らせる地域づくりというテーマで、初めに安田学園インターアクトクラブの生徒による墨田区の福祉事業所を応援するプロジェクト「すみのわ」の開発・販売体験の報告と、墨田区社会福祉協議会の菊池さんによるすみだハート・ライン21の事業紹介がありました。その後のグループディスカッションでは、地域生活で暮らしにくさを感じる場面と今の地域で気になることについて話し合っていました。異文化の方の増加によるゴミの捨て方の問題や、空き地が増えてそこにマンションが建つことで地域での顔の見える関係がなくなったことが不安という話が挙がりました。そして、環境変化、大人も子どもも毎日とても忙しい中を過ごしていること、毎日更新される情報の信頼性についての問題があがり、一方コロナ禍で在宅ワークが増えたことにより心の余裕が増え、ボランティアに取り組む方も増えるのではないかという話もありました。

それらの問題にどのように取り組んでいくかという話し合いでは、まずは挨拶という基本的なところに立ち返って、返事がなくても諦めずに挨拶をし続けることで少しずつ会話が生まれた、という好事例も話されていました。ほかにもごみ拾いを心掛けているという話もあり、これらの様々な交流を通じて当初距離感があった方もだんだん距離が縮まっていき、自分と考えの違う人との交流で新たな気づきが生まれるのではないかという話がありました。心に余裕が持てるようになってそのような輪が広がっていくことで、より住みよい地域が広がっていくのではないかということでした。

【第3分科会：笠間委員】

第3分科会では配慮が必要な方に寄り添う災害時の助けあいというテーマで、墨田区災害復興支援組

織の須藤さんからお話がありました。須藤さんは見た目では分かりづらい障害があり、分科会を通してそういった方に寄り添うことの大切さを感じました。白杖を持っている方が杖を頭上に掲げている際は手助けを求めるサインであるという話や、障害のある方が災害時に使用するバンダナがあるという話も初めて知りました。普段はスマホがあれば外国の方や耳が聞こえない方などともコミュニケーションがとれますが、災害弱者とされる方は、災害時に情報を取り入れることがいつも以上に大事になるため、周囲と直接コミュニケーションをとることがとても大切であるというお話をされていました。

災害時の障害のある方への支援については答えが1つではないというのと、実際に経験しないと分からないという部分がありますが、可能な限り想像してこういった話し合いの中で自分だったらどうするかを考え、他の人との考え方の違いを比較することで新たな視点を取り入れるということが大切だと思いました。

【第4分科会：口町委員】

第4分科会では多文化共生をテーマに文花児童館の加藤さんから、外国ルーツの方と日本人の考え方の違いなどについてお話がありました。地域の中だけではなく職場でも外国ルーツの方が増えていて、仕事のやり方について説明したときになかなか理解してもらえなかったが、丁寧に説明をしていくことで理解してもらえたという話や、教えるだけではなく教えてもらうという姿勢も持ってお互いが接していくことが大切であるという話も伺いました。そして外国ルーツの方から見た日本人を考えるという内容では、SNS上でコミュニケーションをとる日本人が増えてきて、直接的なコミュニケーションが減ったという話があり、外国人からはより理解できない存在になるのではないかと個人的に思いました。また日本のゴミ捨てのルールが厳しすぎるという話については、自治会長から説明しても納得してもらうのに時間がかかるという話をよく聞いていたので、互いに歩み寄ろうとする姿勢で根気強く説明することで理解してもらえるのかなと思いました。ほかに二つの選択肢があるどちらか決めずに折衷案を出そうとするという意見もあり、私自身もなかなか結論を出せずに最後にはほかの方に決めてもらうという経験があるため、問題意識を持つ必要があると思いました。

これらの話を聞き、外国ルーツの方と日本人が互いに理解が進み差がなくなれば、もっと共存していける社会ができるのではないかと思います。

【都築 則彦氏】

自分のことを大切にすることの重要性が今の時代は浸透してきており、自分を蔑ろにして何かをしたり、本当にやりたかったことをあきらめてしまったりするのではなく、自分を大切にしていこうとすることはとても素晴らしいことだと思います。しかし、自分を大切にすることは逆に自分の世界に閉じこもってしまという一面もあり、そういったところからつながりやこんな人と知り合っていこうという言葉や考えが生まれ注目を集めているのかなと思いました。本日の分科会で色々とお話を聞く中で、自分の世界を大切にしながらどうやって人とつながっていくのか、どう居場所を作っていくのか、というのが4つの分科会のある種の共通点だったのかなと思っています。自分と違う人を理解すること、例えばマイノリティを理解することとは、マイノリティの方のため以上に自分のためになっている部分もあると思っており、それは一人として同じ人間はいないからです。私とあなたは違うということを前提に誰かと向き合いつながっていくことが大切だからこそ、色んな人とつながって数を増やしていくことが当然大切だと思います。しかし、つながりというのは数だけではなく質も大事なのかなと思っており、

ゆるいつながりも大事だし、何でも言い合えるつながりも大事だと思います。そういったつながりの太い細いもあると思いますが、つながりは色のようなものもあると思っています、あったかいつながり、あるいはこの人とはしっかりと話し合えるというようなつながりなど、色んなつながりがあると思います。今日はワークショップをしたと思いますが、こういった皆で何かを考えていこうというつながりだけではなく、地域にはもっと色んなつながりの種類・色があると思います。そういったつながりの数を増やし、色んなつながりを作り上げていくなかに色々な雰囲気や色をそこに作っていくことが大切になってくると思います。

今回のテーマは多世代という言葉が入っていて、中高生にもぜひ参加してほしいという思いで今回のフォーラムは作られていると聞いています。このフォーラムは例年7月1日のすみだボランティアの日の前後でやっているそうですが、その時期は高校がテスト期間で参加できないため、高校生と一緒に話し合える場を作りたいということで今日という日を作ってみたという話を聞いています。きっと大変だったと思いますが、それほどに中高生の皆さんと一緒に地域を作っていくことに参加者の皆さんは興味津々なのだと思います。これはきっと第一歩目だと思っており、今日のグループワークで楽しく話せたという人もいれば少し話しにくかったという人もきっといると思います。そういった気持ちをひとつひとつ大切にしながら、地域はきつとつながりたいと思ってくれているため、そこに中高生がどうやって入っていくことができるのかを考えていくことが大事だと思います。そして私が中高生と話すときに大事にしているのが、中学・高校が3年間しかないということです。私の1年間と中高生の1年間は全然価値が違ふと私は思っており、全く価値の違ふ大切な3年間の中の時間をこういった場に来てくれて、一緒に話してくれるということに心からリスペクトを払いながら、その中で地域の皆さんと中高生が上手くつながって色んな雰囲気の色んなつながりを地域の中で作り上げていくということができるといいと思います。今日の日がその大切な一歩になることを祈っています。

(6) 閉会

司会からの挨拶があり、閉会となりました。

8 その他

(1) 実行委員会の開催

本フォーラム実施に向け、「すみだ地域福祉ボランティアフォーラム実行委員会」を設置しました。

回数	日時・場所	内 容
第1回	4月9日(木)午後1時30分 31会議室	役員の選出、テーマ・内容の検討
第2回	4月23日(木)午後1時30分 31会議室	内容・チラシデザインの検討
第3回	5月14日(木)午後1時30分 21会議室	内容・役割分担の検討
第4回	6月8日(月)午後1時30分 31会議室	進行・役割分担の最終確認

(2) 実行委員(敬称略)

五十嵐 美奈(委員長)	黒田 佐恵子	岩澤 和樹	若菜 進
口町 光弘(副委員長)	高村 弘晃	前田 恵子	金子 明
笠間 義弘	八重田 裕一郎	杉崎 和洋	

(3) 広報

区のお知らせ(5月21日号)、すみだ社協だより(6月号)、墨田区ホームページ、墨田区社会福祉協議会ホームページ、SNS、チラシの配布等により、PRを行いました。



(4) アンケート結果

ア 本日のイベント「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」について

Q1 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムに参加したことがありますか？

初めて	38名	3回目	1名	複数	11名
2回目	3名	15回目	1名		

Q2 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムは何で知りましたか？(複数回答可)

区・社協のホームページ	4件	知人等から誘われて	5件	その他	1件
チラシ(町会掲示板等)	16件	所属団体からの連絡	28件		
区報・社協だより	8件	区公式LINE・X	1件		

Q3 内容について

(ア) 全体

よかった	40件
どちらかといえばよかった	12件

(イ) 講演会

よかった	43件
どちらかといえばよかった	9件
どちらともいえない	1件

(ウ) 分科会

	分科会1	分科会2	分科会3	分科会4
よかった	12件	5件	14件	9件
どちらかといえばよかった	4件	6件	2件	0件

(エ) 安田学園中学校・高等学校などの学生の参加や他の世代との交流により
気がついたこと・感じたこと

- ・自分たちとは違う視点や体験したことのないようなことを知れてよかった。
- ・自分たちは周りの中高生よりも早くボランティアを知ることができて恵まれていると感じた。
- ・多世代の方々と1つのテーマについて話し合う中で、それぞれが色々な意見を持っていてその中でも共通する部分もあり、とても意義のある会だった。
- ・あと数年もしない内にこの方々がリーダーになっていくと思うと頼もしい。
- ・自身の体験談を話し関心をもっていただき良き交流ができた。来年以降も継続していただきたい。
- ・中高生の皆さんの積極的な意見にとても感動した
- ・インターアクトクラブを初めて知った。素晴らしい活動に取り組んでいる中高生に活動の場を広げて頑張ってほしい。
- ・中高生の発表や発言にとても元気をいただいた。今後も年齢に関係なくぜひ一緒に色々考えていきたい。

イ ご自身の活動について

Q 1 現在ボランティア活動・地域福祉活動をしていますか？

している	25件
していない	14件

Q 2 具体的にどのような活動をされていますか？

町会自治会活動	15件	福祉施設の手伝い	8件
地域の障害者や高齢者への見守り、手助け	14件	災害ボランティア	4件
地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け	6件	国際交流・国際協力	2件
各種イベント運営の手伝い	17件	その他	13件

その他：高齢者みまもりネットワーク協力員、ペットボトルキャップの回収、水やり 等

Q 3 今後どのような活動をしてみたいですか？

町会自治会活動	10件	福祉施設の手伝い	7件
地域の障害者や高齢者への見守り、手助け	15件	災害ボランティア	11件
地域の子どもや子育て世帯への見守り、手助け	12件	国際交流・国際協力	11件
各種イベント運営の手伝い	10件	その他	3件

その他：ボランティアのマッチング、地域交流の支援 等

ウ 本日の感想や、今後とりあげてほしいテーマ等

【～20歳代】

- ・色々な世代の人たちとお話できてうれしかった。
- ・もうちょっと長い時間話してみたいと思った。
- ・災害が起きた際に障害者の方は何をしてほしいのか。

【30～40歳代】

- ・普段は関わりのない職業や世代の方と関わることができ大変勉強になった。
- ・分科会1では職員の方がたくさん声をかけていたのもあり、意見交換が盛んだった。分科会4でももう少し声掛けしてもらえると良かった。

【50～60歳代】

- ・色々な人が意見や考えを言える場があるのはとても良いと思う。
- ・皆で沢山のアイデアや意見を出し、高校生もしっかりとした意見を発表していた。テーマに沿っていてもすぐ雑談にそれるほど楽しいグループだった。
- ・分科会の各グループで人との交流の機会を作っていくことが共通して話されていた。様々課題は多いが、その解決のきっかけとなるのは人々の交流の機会を作っていくことなのだと思います。

【70歳代～】

- ・分科会で聴覚障害者の方とご一緒させていただき、直接意見が聞けてよかった。
- ・災害関係の分科会に参加し、日頃からのコミュニケーションの重要性を感じた。
- ・グループワークの時間がよかった。また各々の発言に頷く場面が多く共感できてよかった。
- ・参加する前はどんな会なのか不安だったがとても勉強になり楽しく過ごせた。
- ・高齢者は沢山いると思うが、高齢者が安心できる居場所は少ないような気がする。
- ・異世代交流の進め方

年代

年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数
～20代	16名	40代	3名	60代	5名	80代以上	6名
30代	5名	50代	5名	70代	9名	未回答	5名

参加者の年齢の推移（令和3年度～令和8年度）

アンケート提出者から算出

	～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～	20-40代	50-80代
3年度	0%	4%	2%	11%	25%	40%	9%	6%	94%
4年度	8%	3%	3%	16%	16%	35%	9%	14%	86%
5年度	14%	6%	7%	18%	29%	17%	9%	27%	73%
6年度	14%	10%	7%	17%	15%	27%	7%	31%	66%
7年度	6.5%	6.5%	13%	11%	19%	31%	13%	26%	74%
8年度	33%	10%	6%	10%	10%	19%	12%	49%	51%

住まい

墨田区内：30名 墨田区外：17名 未回答7件